



—第 21 号—

地域・だいがく連携通信

—神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒 657-8501
神戸市灘区六甲台町 1-1
TEL : 078-803-5391
FAX : 078-803-5389
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

COC+事業が3年目を迎えました

文部科学省の事業である「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」が本年度で3年目を迎えました。平成29年6月29日には外部評価委員会を開催しました。今後、さらなる事業の充実に向け取り組んでいきます。

地域をフィールドにした教育・研究活動

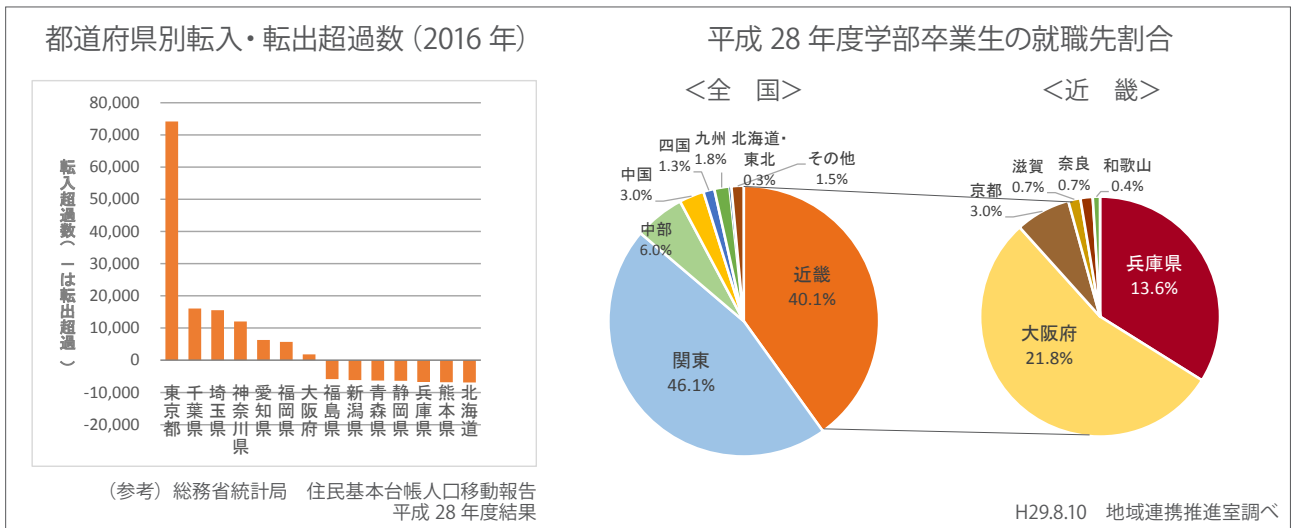
地域課題を「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の5つに分け、専門性のある実践力を持った人材の育成に取り組んでいます。その一つに、これまで培ってきた知の成果を持ち寄り、今後の人材育成に役立てるため、『シリーズ地域づくりの基礎知識』の刊行を予定しています。平成29年10月からは、全学共通授業科目の中で、「地域社会形成基礎論」、「ひょうご神戸学」をスタートさせます。さらに、地域を志向した科目を「地域志向科目」として指定し、教育プログラムの充実を目指します。

ひょうご神戸学 (1単位)
地域社会の基盤や地域が直面している課題について、経済・福祉・歴史・法律などの各分野からアプローチし、理解を深めます。地域再生や地域づくりの取り組みを皆さんとともに検討したいと思います。
月曜日5限(17:00~18:30)
第3Q 10/2 第4Q 12/4
スタート!

地域社会形成基礎論 (1単位)
ひょうご・神戸地域における経済・地理・歴史・気象などの観点から、兵庫県・神戸市の現状を知り、課題を見出します。将来、皆さんも地域再生や地域づくりの担い手になってみませんか?
木曜日5限(17:00~18:30)
第3Q 10/5 第4Q 12/7
スタート!
科目区分 総合科目 I
開講時期 平成29年度 第3クォーター
平成29年度 第4クォーター
開講教室 B208教室
※第3、4クォーターの内容は同じです。
電機制御の拠点

地域創生との関係は?

2016年の兵庫県の転出超過数は、6,760人と全国ワースト3となっており、県内における若者の地元定着は喫緊の課題となっています。一方、神戸大学の学部卒業生(平成28年度)の県内への就職先の割合は、13.6%となっています。COC+事業では学生に対し、地域の魅力を知ってもらうために、中山間地域においてインターンシップ型プロジェクトを実施したり、この秋には、普段訪れることの少ない但馬地域へ訪問するバスツアーの企画などを行っています。本学においても、様々な教員が地域創生に資する教育・研究を行っています。



神戸大学の「知」を地域へ

昨今、「地域創生」が掲げられ、地域における安定した雇用の創出や、地方の人口減少への歯止めが目指されています。そういった中、イノベーションの原動力となる知と若者が集まる大学への期待は高まっています。本学には、地域をフィールドに先導的な活動をしている教員や学生がたくさんいます。そうした活動をより「見える化」し、地域の中での大学の存在価値を高めていけるよう、地域連携推進室はその橋渡しをしていきたいと思ひます。関心をお持ちの方は、ぜひとも地域連携推進室にお声かけください。

地域と学生をつなぐ～実践農学の現場から～

COC+自然と環境領域 木原 弘恵コーディネーター



神戸大学では、地域の皆さんの協力を得て、篠山市で、「実践農学入門」や「実践農学」を全学対象に開講しています。平成28年度よりインターンシップ型プロジェクトを導入した「実践農学」について、コーディネーターの木原さんにお話を伺いました。

―実践農学ではどのようなプロジェクトを進めているのでしょうか。

平成29年度は、調査プロジェクトとインターンシップ型プロジェクトとして4つのプロジェクトを進めています。私はそのうち、特産品メニューに開発に向けた調査(JA丹波ささやま)と地域の魅力発見マップづくり(大芋地区)の2つを担当しています。



JA丹波ささやまでのプロジェクトの様子

―篠山をフィールドにしたプロジェクトのようですが、どのようなことがきっかけで企画が立ち上がるのでしょうか。

まず、担当教員とコーディネーターが、どこに受け入れをお願いするか話し合うところからスタートします。地域の状況や、どういうところが受け入れてくれそうか、また学生の学びに繋がりそうか検討しています。ある程度候補が決まったら、先方に受け入れの可否をお伺いして、決まればそこから具体的な計画を立てます。

―準備が大変そうですね。

一般的なインターンシップのように企業に一定期間学生を預けるというのではなく、中山間地域の課題解決に向けたプロジェクトに携わるのが特徴です。その際、受け入れ先の方が引き受けられる形で、かつ大学としてもサポートできるようなプロジェクトに落とし込むのが非常に重要なポイントです。たとえば今回は、私もJAの中期計画などを読み、いくつか実現可能なものを受け入れ先と協議し、プロジェクト案を作りました。

―活動している学生の様子は

大芋地区では、自転車でめぐる観光ツアーに利用できるようなマップ作成のプロジェクトを実施しています。



公民館での聞き取りの様子

名所を廻るだけではなく、その地域内の場所に関するエピソードをマップに落とし込むことに挑戦しています。8月19日には、大芋地区の藤坂地域の方に公民館に集ってもらい学生がお話を伺う機会を設けましたが、20人近くの地域の方々が集まって下さいました。昨年度実践農学入門を大芋地区で実施したので、農家の方との関わりがありました。それ以外の方に関わる良い機会になったのではないかと思います。お風呂に入るのに近所の方にもらい湯にも行きました。

―コーディネーターとして感じることは。

このインターンシップ型プロジェクトを始めて2年目ですが、各コーディネーターの裁量に任せられることが多く、継続的に実施するにはまだまだ課題もあると考えています。特に、授業として実施しているため、評価が必要となってきますが、プロジェクトごとに内容が大きく異なるので、同じ指標で、どう図っていくのかも、難しいところです。これらをどう改善していくか、これからの課題だと思います。

また、学生と地域の方との付き合いには、コーディネーターのフォローが必要な場面もあります。受け入れ先の方々に負担をかけず、学生にも教育効果のあるようにプロジェクトを進められるよう心がけています。

―多くの手間や工夫をおこなった取組だということが分かりました。



大芋地区でのプロジェクトの様子

KOBE 学生ワークショップに参加

神戸市主催の「神戸の未来をつくる KOBE 大学生ワークショップ」に、本学から、12名の学生が申し込みました。ワークショップは、市内外の大学生が6～7名のグループに分かれ、「大学交流拠点」、「大学生等のポータルサイト」のいずれかのテーマについて議論をし、学生視点のアイデアを提案するものです。アイスブレイク、グループワークを含む全3回のワークショップを経て、平成29年8月9日には、市長の前で提案発表を行いました。

台風の影響で試験の補講とワークショップの最終日が重なり、残念ながら出席できない学生もいましたが、リーダーシップを発揮しながらグループをまとめるなど積極的に臨む本学学生の姿が見られました。

提案発表会では、ポータルサイトへのアクセスを増やすための工夫や、大学交流拠点への提案として、「刺激が欲しいが、ほんの一步が踏み出せない暇な大学2回生」といった具体的なターゲットを定めて提案を行ったグループなどがあり、学生の生の声を市政に届ける有意義な機会となりました。



ワークショップの様子



提案発表会の様子

兵庫県文化遺産防災研修会を開催

平成29年7月5日、地震や風水害などの自然災害から地域の文化財や展示物を守るため、関係機関による県内相互支援体制の構築に向けた情報共有を目的に、「兵庫県文化遺産防災研修会」を開催しました。本研修会には、兵庫県内の文化財担当職員や博物館・資料館学芸員ら27機関57名から参加がありました。

研修会では、まず第1講として兵庫県教育委員会文化財課長の山下史朗氏より「兵庫県の文化財防災体制について」と題し、兵庫県を中心とする文化財防災体制確立へむけた取り組みの経緯を述べられ、現在ではすべての文化財（未指定含む）

を対象に近畿圏レベルで相互応援する被災対応ガイドラインが関西広域連合で議論されていることが紹介されました。第2講は神戸市危機管理室計画担当課長の清水陽氏より「神戸市の防災体制について」と題し、神戸市の地域防災計画の取り組みを講じられ、近い将来には市教委文化財課とも連携して計画に文化財への対応を盛り込んでいけるよう話し合っていく旨を述べられました。第3講として本学地域連携推進室長の奥村弘氏より「地震等災害後の文化遺産防災を進めるために」と題し、阪神・淡路大震災から東日本大震災にいたる大規模地震災害や平成16年以降の大規模水害時の文化遺産保全活動の取り組みを歴史資料ネットワークの活動とともに紹介し、被災地の再建には過去と現在の記憶を未来につなぐ文化財を「地域歴史遺産」として日常的に保全していく事の重要性を述べました。最後に第4講として本学地域連携推進室特命准教授の松下正和氏より「兵庫県内での風水害による水損史料救出活動について」と題し、平成16年以来本格的に対応を始めた被災資料の保全活動について具体的に講義しました。



会場の様子



発表者の方々

シンポジウム形式のディスカッションを行った後、最後に、神戸市教育委員会文化財課長の千種浩氏から閉会の挨拶が述べられました。

平成 29 年度地域連携 学内公募事業

地域連携推進室では、学内の新しい地域連携の芽を育てるため、教職員や学生による地域活性化のための活動を支援しています。今年度は、次の各事業が採択されました。

● 地域連携事業（教職員対象）

国際文化科学研究科	映像を媒介とした大学とアーカイブの地域連携
国際文化科学研究科	「神戸空襲を記録する会」戦災資料に関する学術的調査・整理および利用提言
経済学研究科	複数大学の連携による地域創生事業
工学研究科	高倉台団地再生・活用プロジェクト
工学研究科	被災地定点観測を通じた多世代災害語り継ぎと手法の開発

● 学生地域アクションプラン（学生対象）

神戸大アートマネジメント研究会	こどものためのコンサート第10弾
神戸学生森林整備隊	神戸市キーナの森における里山の資源利用の普及と継承
AGLOC	地域と世界をつなぎ、篠山の魅力を世界へ
プロジェクト福良	プロジェクト福良
母子健康応援プロジェクト	母子にやさしい街づくり
神戸在宅呼吸ケア勉強会	慢性呼吸器疾患患者の入浴動作における呼吸機能評価

平成 29 年度 神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業助成

灘区との連携協定に基づき、教職員・学生からなる組織を対象に「地域の課題解決および魅力向上を目的として実施する活動・事業」に対して灘区が助成を行っています。今年度の採択事業は次のとおりです。

人間発達環境学研究科（教職員）	鶴甲いきいきまちプロジェクト
まちプロジェクト実行委員会（学生）	まちプロジェクト 一まちTフェス'17ー
灘区地域活動センター（N.A.C）（学生）	灘区内の災害復興住宅の集会所におけるふれあい喫茶の運営や戸別訪問活動
神戸大学天文研究会	なだ星まつり

活動報告（平成 29 年 3 月～ 9 月）

3月	06日	(大学)	大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成（灘区公募事業）公募開始
	10日	(保健)	保健学研究科地域連携センターシネマカフェ「モーツァルトとクジラ」
	23日	(大学)	平成 28 年度第 2 回 COC + 推進委員会 平成 28 年度第 4 回地域連携推進室会議
	24日	(大学)	地域連携事業・学生地域アクションプラン公募開始
	27日	(大学)	平成 28 年度神戸大学地域連携活動報告書を発行
5月	18日	(大学)	平成 29 年度第 1 回地域連携推進室会議
	21日	(人文)	まちづくり地域歴史遺産活用講座 in 朝来
6月	16日	(理学)	理学研究科での FD 実施
	21日	(海事)	海事科学研究科での FD 実施
	29日	(大学)	第 1 回ひょうご神戸プラットフォーム外部評価委員会
7月	05日	(人文)	兵庫県文化遺産防災研修会
	18日	(大学)	第 3 回ひょうご神戸プラットフォーム協議会
	25日	(農学)	農学研究科地域連携研究セミナー（A-Launch）「動物系研究者が良く間違える統計」
8月	04日	(農学)	農学研究科での FD 実施
9月	06日	(人文)	人文学研究科での FD 実施
	16日	(人文)	企画展 明石藩の世界 V 「明石藩の幕末維新」（～ 10/22）